氏名：　耳塚　寛明　（MIMIZUKA Hiroaki）
所属：　人間文化創成科学研究科人間科学系
学位：　教育学修士（1979 東京大学）
職名：　教授
専門分野：　教育社会学（特に学校社会学、教育選抜と学校組織、青少年文化、教育政策）
E-mail：　mimizuka.hiroaki@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

教育社会学／学力／教育政策
Sociology of education ／ Academic achievement ／ Educational policy

◆主要業績　　総数（７）件

・耳塚寛明「小学校学力格差に挑む　だれが学力を獲得するのか」日本教育社会学会編『教育社会学研究』第80集、23-38頁（2007）
・耳塚寛明「学力と家庭的背景」『JELS』第10集、1-15頁（2007）
・耳塚寛明・牧野カツコ編著『学力とトランジッションの危機　閉ざされた大人への道』金子書房、206頁（2007）
・耳塚寛明「高校の現在」民主教育協会『IDE　現代の高等教育』No.489、4-9頁（2007）
・耳塚寛明「教育における格差　学力格差の実態と政策課題」『教育展望』第53巻第1号、教育調査研究所、30-38頁（2007）

◆研究内容　／　Research Pursuits

教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する社会学的研究。

1. 学力格差の社会的形成過程研究
「だれが学力を獲得するか」は、教授学上の焦点関心であるのみならず、教育選抜の帰結を左右する中核的問題である。19年度からはじまったグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」（拠点リーダー耳塚）の中で、「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」（ＪＥＬＳ）を継続する。なお、学力格差に関する社会学的研究は、平成18、19年度文部科学省新教育システム開発事業に採択され、20年度中に報告書を刊行する。また19年度は、中国、韓国における学力格差、学力政策について現地調査を開始した。
2. 進路選択の社会学
だれが、どのように進路を選択し、選抜されるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。高卒無業者、ニート、フリーターにも焦点を合わせる。
3. 教育政策の社会学

Sociological Study of Education: Educational Policy, School Organization, Educational Selection, Academic Achievement.
Theme 1. Ecological Study of Student Achievement: I adminstered a empirical research on the relationship of students achievement, their career formation and family background.
Theme 2. Sociological Study of Student Career Formation: I analyzed changing patterns of youth transition from school to workforce.
Theme 3: Sociology of Educational Policy in Japan

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部、大学院において以下の授業を開講した。

1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
4. 教職課程における教育社会学を中心とした講義
5. コアクラスター「ジェンダートラック論」

【2007 年度】

学部ゼミでは、「教育改革の社会学」を主テーマに、『変動社会のなかの教育・知識・権力』を輪読した。各回とも、最新の教育関係の記事、番組等をとりあげて議論するコーナーを設け、また夏合宿も行った。大学院ゼミでは、Lauder, H. et.al(eds) Education, Globalization & Social Change を素材に、新自由主義的教育政策の帰結について議論した。大学院生合宿を 2 回実施。このほか、単位にはならないが、研究室構成員をメンバーとする「業績ゼミ」を随時実施し、進行中の研究について意見交換を行った。

1. Introduction of Sociology of Education, Sociology of School
2. Lecture and Exercise of Social Research
3. Lecture and Seminar on the Methodology of Sociology of Education
4. Lecture on Social Foundation of Education(Teacher Training Course)

In the 2006/2007 term, major theme of seminars in the undergraduate course and in graduate course was limits and possibilities of educational policies of the new right.

◆研究計画

だれが学力を獲得するのか。Japan Education Longitudinal Study(JELS2003、JELS2006) を用いた分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭の経済と文化的環境が関わり、学力格差が生まれていることが明らかになりつつある。格差を縮小する上で、どこにいかなる資源配分が必要であるのかの分析を行い、業績主義の衣を羽織った不平等を是正する方策を模索したい。青少年期から成人期までを対象とした縦断的研究である JELS を継続し、育てたい。2007 ～ 2011 年度の間は、採択されたグローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が、優先的活動機会である。

調査フィールドを受けていただける自治体との協働研究が可能となればうれしい。

◆メッセージ

いま日本の教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとし（たとえば義務教育費国庫負担制度や教員人材確保法）、「脱ゆとり路線」へと舵が切られました。行政の重点は、教育条件整備から結果の評価に基づく資源配分へとシフトしつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういう帰結をもたらすのでしょう。とりわけ、格差が再生産される社会に日本は変わっていくのでしょうか。教育と社会の現在に危機感を持ち、エビデンス・ベースにアプローチしようとする皆さんを歓迎します。

中国教育部基礎教育質量観測センター（北京師範大学内）